子供の安全対策

学校・家庭・地域が一体となって取り組む安全指導

鹿児島市立荒田小学校

荒田小学校は、児童数405人、PTA戸数327戸、創立98年を迎える歴史と伝統ある学校です。

子供自らが安全な行動をとることができるように、学校・家庭・地域及び関係機関が連携しながら、様々な活動を行っています。

交通安全教室

春と秋の年2回、交通安全教室を、警察や市役所安心安全課の方々の協力を得て、実施しています。

低学年では、身を守る歩き方と横断歩道の渡り方、中・高学年では、正しい自転車の乗り方を学習します。また、学年ごとに、ダミー人形の衝突実験により、事故の怖さと交通ルールを守ることの大切さも学んでいます。

各学期はじめの一週間、保護者と教職員が通学路での登校指導に当たり、安全な通学の見届けを行っています。

危機回避能力の育成

例年、6月の日曜参観日には、4年生以上の親子が一緒に登下校をしながら、交通事故、不審者、水害などが起きそうな危険箇所をまとめた校区安全マップを作成しています。そして、校区の危険箇所として全校児童に指導し、危機回避能力を高めています。（本年度は未実施）

自然災害（大雨、突風、大雪等）発生時等において、安全に素早く下校できるように、集団下校訓練も各地区の民生委員の方々の協力をいただいて実施しています。

新型コロナウイルス感染症対策

さらに、今年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、家庭と連携した登校前の検温と健康観察、マスク着用、学校における教室等の常時換気、休み時間ごとの手洗い、うがい、三密（密閉・密集・密接）を避ける等の『新しい生活様式』を踏まえた取組を行いながら、感染防止に努めています。また、下校後は、児童が触れやすい場所（机・椅子、ドアノブ等）、水飲み場の蛇口、階段の手すり等を教職員で消毒しています。

これからも学校・家庭・地域が緊密に連携しながら子供の安全対策の充実を図ってまいります。

（教頭　中島保男）

民生委員と連携した集団下校訓練

安全マップをもとにした話合い

地域と連携・協働した安全教育活動

さつま町立柏原小学校

登下校の温かい見守り活動

本校は、毎日、地域ごとの縦割班で集団登下校を行っています。登校時は、ボランティアで、数名ずつの保護者が見守り、安全に登校できるように声をかけています。

また、平成17年に、地域の自主防犯組織「防犯パトロール隊」が結成されました。敬老会など小学生を孫に持つ世代の方々が中心です。約15人ほどの方が所属してくださっており、交代で、雨の日も、風の強い日も、毎日登下校の見守りを行ってくださっています。学校から下校時刻をお知らせし、それをもとに月ごとの当番割当表を作成して活動されます。

一部の地域で始まった見守り活動が、今では他の地域にも広がっています。4月には、パトロール隊の方と全校児童との顔合わせも行います。「おはよう。行ってらっしゃい。」「ようがんばったね。また、明日ね。」の温かい声かけとともに温かい眼差しで子供たちを見守ってくださっています。

PTA生活部主催の自転車教室

本校では、公道で自転車に乗ってよい学年は、3年生以上となっています。学校でも、交通安全教室で「自転車の乗り方」について学習しますが、2年生の3学期に、PTA生活部主催の「自転車教室」を開催しています。

希望者が対象ですが、ほとんどの2年生とその保護者が参加しています。警察の方に協力していただき、まず「自転車の点検の仕方」や「ヘルメット着用」の大切さを教えてもらいます。次に、校庭に描かれたコースで、安全な乗り方の練習をします。児童だけでなく保護者の安全に対する意識を高めるとともに、親子で自転車の安全な乗り方を練習するよい機会にもなっています。

「防犯パトロール隊」に見守られて下校

「しっかり見て、確認！」

おわりに

子どもの安全を守るには、地域・保護者・学校が連携して取り組むことが欠かせません。見守り活動を続けてくださることで、子どもたちが地域で安心して過ごすことができます。今後もさらに連携を図りながら安全への取組を推進していきたいと思います。

（教頭　那須広代）